

真のバリアフリーとは

中学校三年

皆さんに質問があります。例えば自分に障がいがあり、車いすが必要な生活だったとしましょう。そのとき、バリアフリーが進んでいる郊外とバリアフリーが進んでいない都心、どちらに住みたいと思いますか？

この問いに僕は少し頭を悩ませ、バリアフリーが進んだ郊外だと答えました。理由は簡単で、その方が一人でも何とかなりそうだし、安心だと思ったからです。日本人は僕と同じ答えを出す人が多いそうです。

ところが、海外ではどうでしょう。圧倒的に、バリアフリーが進んでいなくても都心を選ぶ人が多いのです。なぜなら挨拶をするように皆が声を掛け合い、助け合うのが当たり前で、助けが必要な人に手を差し伸べられる社会が出来ているからです。

逆を言えば、今の日本にはそのような社会がないということになります。人に迷惑をかけてはいけない、一人で何とかしなければならぬ、これは僕たち日本人に植え付けられたマインドであり、呪縛とも言えるでしょう。しかし、このような考えを日本人の多くが持っているからこそ、日本の治安と秩序は守られ、また海外からも評価されていると思います。

しかし、その考えが極端になってしまうと、困っているても声を上げられず、また助けることへも億劫になってしまいます。その結果、人に寛容になれず、相手を非難してしまうのではないのでしょうか。みなさんも公共交通機関で泣く赤ちゃんに対し、我慢が出来ず自分の都合だけを声高に主張する人、優先エレベーターの前で待っている身障者の方を差し置いてお構いなく先に乗る人を見たりしたことはないでしょうか。

では、どうすればすべての人が、より住みよい暮らしができるのでしょうか。僕が感じる海外と日本にある明確な差は、「まあ、いいや」という相手への寛容な気持ちです。生きている限り、いつ何があるかは分かりません。明日人にかける迷惑さえ

自身でコントロール出来ないのです。だから迷惑はお互いさまで、優しく助け合える方が良くと考えます。

ここで少し視点を変えてみましょう。SOSを出すことをためらう人や寛容になれない人がいる一方で、困っている人を助けたくても遠慮して声をかけられない人も多いと思います。

先日、まさにこんな場面を経験しました。込み合うコンビニで、僕も含め六人ほどがレジに並んでいたのですが、コーヒーマシンの前で高齢の方が困っていました。その方は、コーヒーマシンの使い方がわからない様子で、多忙な店員さんは気付いていません。本人は周りに助けを求めることはせず、後ろに並ぶ人はイライラし、周りは声をかけることをためらっている、というTHE日本人のような状況が出来上がっていました。何もせずにいた僕が言うことではありませんが、これって気軽に声を掛け合えていれば簡単に解決することですよ。

以上のことから、現代社会におけるバリアフリーについて考えてみました。一般的にバリアフリーとは、多様な人がいることを考慮しない社会

によって作り出されたものを、物理的に除去することといわれています。しかし私は本当のバリアフリーを達成するためには、意識上、心のバリアフリーが大切だと思います。お互いに迷いなく声が掛け合える、寛容し合える、そんな優しい社会になって、初めて真のバリアフリーといえるのではないのでしょうか。